

大阪教区第21組

2015/10 第2号
真宗大谷派 大阪教区

われら推進員

第21組 教化委員会発行

事務局 堺市西区草部79 以速寺

TEL 072-275-0339

弥陀の本願には
老少善悪の
人をえらばれず

『歎異抄』第一章から



はじめに

七月の「夏季仏教講座」には推進員の皆様にも多数ご参加いただきありがとうございます。

今回の佐野明弘先生のお話を皆さんのようにお聞きになったでしょうか。七〇〇人を越える参加者が同じ話を聞きました。感想は人それぞれ違うと思いますが、皆さんそれぞれの人生を歩まれてきた中で様々な経験や体験を通して自身の人生観をお持ちのことでしょう。

ただそこにひとつ共通する事があります。それは、みな真宗門徒であるという事です。今号には第二期推進員養成講座一班「二一海」の皆さんの座談会の様子が掲載されています。座談をすることでお互いの意見をわかり合い、理解できるのだということがよくわかります。

そこには真宗の教えだけで無く日常の何気ない事柄から話の輪を広げていく事の大切さが感じられます。これからもうかよろしく願います。

副組長 中島 裕

第2回「推進員の集い」ご案内

☆日時 12月10日（木）午後2時～午後4時半

☆会場 堺支院（堺南御坊）

☆内容 ・お話し 沖野 頼信さん（第7組本照寺前住職）
・語り合い 近況などから話しましょう。

☆懇親会 5：00～7：00会場を移して会費制の懇親会を開催します。

・会費 3,000円を当日集めます。

☆申込み 同封の返信用葉書にて10月31日までにお返事ください。

☆お問い合わせ 寺田 浩士（善正寺所属 推進員） TEL 072-260-1525



★詳しくは同封の開催要項をご参照ください。

●夏季仏教講座に参加して●

七月七日（火）堺市産業振興センターに於いて佐野明弘先生の講話「涙をとりもどす時」ある帰還兵の人生から」で、アレックス・ネルソン氏の話を聞きました。アレックスさんは、アメリカで差別と貧困のため志願した海兵隊員で、ベトナム戦争に参加して人を殺し、心に傷を負いました。帰還してからは随分と生活も乱れました。

しかし、同級生の強い勧めもあって、子どもへの戦争体験の講演を行います。そして、最後に少女から「あなたは人を殺しましたか」と質問されたのです。

アレックスさんは答えられずに沈黙しました。すると少女はアレックスさんに泣きながら抱きついてきました。思わず、アレックスさんは「殺しました」と答え、同時に涙がとめどなく流れたそうです。この時、アレックスさんは涙を取り戻して、あやまること（ごめんなさい）を思い出したのです。

佐野先生は自分を裁き、自分を傷つけてしまう時、生きてゆくことすらが難しくなると説かれます。

その後もアレックスさんは幾度となく自殺を考えたそうですが、良いカウンセラーに治療を受け立派に心の病をなおされました。やがて縁あって佐野先生とアレックスさんは深い絆で結ばれ、一緒に平和活動をされました。しかし、残念ながらアレックスさんは他界され、ニューヨークでの葬儀を佐野先生が執り行われたのです。

私たちはこの平和な時代に生きていることは素晴らしいと静かに言うことができます。



野村 憲司
（常通寺所属 推進員）

合掌

あとがき

「聴聞でなく笑聞ですよ」「なんでも話せる」会「二一海」は、六年前の第二期推進員養成講座の一班のメンバーが、宣誓文の生みの苦しみで絆が深まり今年一回集まっている会です。素晴らしい。

思いおこすと十六年前第一期では、日常の悲しみの中で気づく仏さまのみ教えに学び、共同教化として、組門徒会員と推進員と僧分坊守が一体となり各同朋の会（一ヶ寺・数ヶ寺合同）を立ち上げました。

充実から停滞期を経て、再生の第二期は「南無阿弥陀仏と私」をテーマに、日ごろの思いを共に語り合う場を模索。

お寺とのパイプ役として、門徒の「発信者」として、われら推進員の活動が願われてきました。

今不思議な縁が結びあい、誓いに応えて、種々の果実が処々で生まれています。

北畠 顕信（光浄寺住職）



私たち こんなことをしています 第2期養成講座 1班 にいいかい 「二一海」

司会が時間どおり会場に着くと、既に皆さん待ちわびていた様子。

大切な縁と絆

毎年集まられているのですか？

A この会がどういう経緯で出来たかというのを最初に話しましょうか。

私が一班の班長だったんです

G ここでは何でも話せる。住職の前では話づらいこともあるでしょ。なんか恥ずかしくて。
A 確かにここなら、他の所では話せないことが話せる。なんぼ恥かいてもかまへんから、話が出る。

B だから参加したいと思うんです。

A この会は、聴聞ではなく笑聞ですよ。ひどいときは腹を抱えて笑います。

僕は正直座談会が嫌いでした。何を言ってもいいかわからなかった。でも、この会なら何を言っても皆だまって受け入れてくれる。

D 東本願寺で初めて出遇って話ができるようになったのが不思議でした。

G 御縁ですよ。

C 推進員になったのもそう。

本山で宣誓文を書いてから、もう六年も過ぎてるんですよ。あの苦労がなかったらこの会はなかったんです。



後期教習での座談会

大橋先生のお話にもありましたが、私は法蔵菩薩が世の中に四十八願が満杯するようになると願を立てられたと思うんです。その願がもう成就されている。そう思うと楽しいですよ。

G お釈迦さまの時代も現代も何も気持ちが進歩していないと思えます。
A どんなに時代が変わっても住んでる人は人間だから、人間の心は変わらないでしょう。
C 環境とかが悪いからでしょう。
G 末法の世ということでしょう。どうしたら良いのかな。
E 煩悩はなくならない。
F 私には悩むけどまあいいかと思う。そんなに深く悩まないですよ。

われら推進員！

最後に推進員になって良かったことはありますか？

G 知らない人と縁と絆ができたことが非常にうれしいです。
E いつでも素直に南無阿彌陀仏の言える身になったことですね。

すけど、補導の海先生が厳しくて。

E 十二時まわったよね。

F ほんと、宣誓文の生みの苦しみで絆が深ま

A そうか、あの宣誓文は私たちが結びつけたラブレターということか。

どうしたら良いのかな？

E しかし、門徒の教えは難しい。ずっと疑いの眼でしたわ。でも、おかげさんでここへきて南無阿彌陀仏のことがちょっと分かってくる。

推進員になってお念仏称えて、正信偈あげて、ちょっとだけ生きていくのに、楽しかったらよろしいですよ。

宣誓

親鸞聖人の七言四句偈を心に留め、
自ら推進員講座の縁を頂戴し、
また念仏の教を正しく理解し、
今後より一層努力して次の世代に
伝えてまいります。
又お寺と門徒さんのパイプ役を徹し、
総代・世話方共々関わり励み、
いかにとも朝の務めをこころで行ないます。

二〇一九年五月十五日
大阪教習所土曜推進員教習
終着者一班一同

B それで、最初は一部の人がだったんですけど、堺支院の会合があつた時に、全員で電話番号を交換して、年一回集まることになったんです。
それから「会の名前を付けよう」ってなつて、二回目の養成講座の2と、一班の1、補導が海先生だったから「二一海」(いいちかい)となつたんです。
D 年一回集まる日も決めようってなつて、そしたら相談した日がたまたま班長の伴野さんの誕生日だったし、勤労感謝の日で毎年休みだから、十一月二十三日に決まつたんです。覚えやすいでしょ。
C 年一回の会合は、難しい話をするんじゃないかって、食事をしながらいろんな話をするんですけど、宣誓文の中に、「お寺と門徒さんのパイプ役」という言葉があるんですよ。
だから、少しでもそんなことが

ができるかなと思つて、元氣なうちは続けたいと思つ

B 良いお話を聞かせてもらうことはありがたいです

F 十七名のグループですが毎回半分くらい集まります。たわいもない話がほとんどですけど、不思議と何か一つのテーマが残るんです。
D 三時間ぐらい話すよね。
A B もっとですよ。
C この会は一言でいえば、縁と絆ですね。
F ほんまにそうですね。
C それから、班の中で世話人を男女二人ずつの四人作つて連絡しやすいようにしていることもよかったですよね。

宣誓文がラブレター

推進員養成講座を受けて何か変わったことがありますか？

B 何かあつたときに物事をいただいていてと感ぜられます。そのお陰で自分なりに落ち着いて回答ができるようになりました。ものすごい成長ですよ。
A 学校では教えてもらえない、知らないことを教えてもらったというの進歩ですよ。すぐに忘れちゃうけど。
D その時は忘れても次に聞いたらすぐ思い出せるでしょ。
F この会に出遇えたのは大きいですね。

B 皆さんの話を聞いて元氣そうな顔を見られるのがうれしい。一班でよかった。
C ちよつと落ち着くことかな。今日は忙しいところありがとうございました。



堺支院での座談会（取材）の様子

座談会（取材）メモ
日時 六月十二日（日）
午後四時～五時半 堺支院にて
参加者（第二回養成講座一班から）
伴野光弘・寺田浩士・北崎隆・
神瀬久仁恵・高畑壽代・
松下清子・山本ミワ子
（敬称略・順不同）
司会 松井聡（浄得寺住職）
なお、発言の重複を考慮して、お名前でなく、記号による表記といたしました。（事務局）